

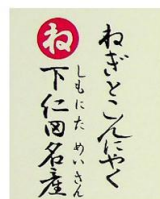
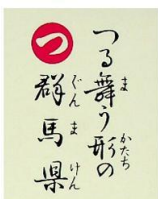
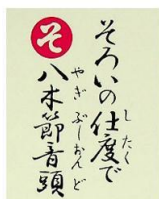
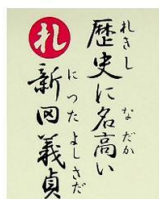
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

令和5年度 全国教職員研修会

～研修会テーマ～

介護福祉士養成施設の存在意義の再検討

～介護福祉士の未来像を問う～



～ 群馬の伝統文化「上毛かるた」～

【日時】 令和5年10月27日（金）9：30～17：00

【会場】 群馬医療福祉大学

【開催方法】 オンライン（Zoom ミーティング）

【主催】 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

【主管】 日本介護福祉士養成施設協会 関東信越ブロック会

【後援】 厚生労働省

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

公益社団法人 全国老人保健施設協会

公益社団法人 日本介護福祉士会

*この研修会は、競輪の補助を受けて開催します。

日本介護福祉士養成施設協会 令和5年度 全国教職員研修会

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

令和5年度 全国教職員研修会

大会委員長 鈴木 利定

開催要綱 〔第三報〕

【開催趣旨】

現在、国内多くの介護福祉士養成施設が、ひいては介護福祉士養成施設協会そのものが存続の危機に直面しているという事実には異論の余地はないでしょう。かつて約2万人いた入学者は、7千人を下まわるまでに減少し、定員充足率の低い状況が続いており、その事実は全国規模で進行する養成施設（課程）数の減少に直結しています。

その状況を少しでも緩和し学校運営を継続させるため、また、介護現場における人材不足解消の一助とするため、多くの養成施設にとって留学生の存在が欠かせなくなっており、全学生数の実に3分の1を留学生が占めるといった現状もみられます。しかしながら、日本市場が外国人労働者にとって魅力を失いつつあるといわれる現状下においては、今後さらにその留学生の人材確保も困難になることが予想されます。

ではなぜ我々養成施設のもとに学生が集わなくなってしまったのでしょうか。

学生数減少の理由については複数要因が複雑に影響し合っていると考えられますが、少子高齢化が進展する我が国において、その国民生活の基盤を支えるという大きな社会的責任を担う国家資格である「介護福祉士」の資格取得ルートが複数存在する中、「費用」と「時間」を費やして養成施設で学ぶ「意義」そのものに揺らぎが出てしまっているという現実には多くの養成施設が共有する危機感なのではないでしょうか。

本研修会では、前年度に東海北陸ブロック会の皆様が提示してくださった「養成施設の持続的発展」という研修テーマを引き継ぐ形で、「養成施設で学ぶ意義」に再度焦点化します。

介護福祉士養成施設における教育は、その他資格取得ルートと何が違うのか。

その教育を受けることによって、専門職者としてどのような未来が開けていくのか。

そもそも我々養成施設が存在する「意義」はどこにあるのか。

本研修会を通してこのような問いへの答えを可能な限り言語化し、全国の教職員の皆様と共有することで、介護福祉士養成施設の未来につながる「希望」を展望したいと考えています。

【テーマ】

介護福祉士養成施設の存在意義の再検討

～介護福祉士の未来像を問う～

【日時】 令和5年10月27日（金）9：30～17：00

【会場】 群馬医療福祉大学

【開催方法】 オンライン（Zoom ミーティング）

【主催】 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

【主管】 日本介護福祉士養成施設協会 関東信越ブロック会

【後援】 厚生労働省

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

公益社団法人 全国老人保健施設協会

公益社団法人 日本介護福祉士会

この研修会は、競輪の補助を受けて開催します。

【厚生労働省報告】 9：50～10：20

テーマ「介護人材確保の現状と介護福祉士養成教育への期待」

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 吉田 昌司 氏

【基調講演】 10：30～12：00

テーマ「介護福祉士養成施設の存在意義の再検討」

群馬医療福祉大学大学院 黒澤 貞夫 氏

【シンポジウム】 13：00～14：45

テーマ「養成施設における教育が育む介護福祉士の可能性」

趣旨

少子高齢化が進展する社会状況において「介護福祉士」の資格取得ルートが複数存在する中、「費用」と「時間」を費やして養成施設で学ぶ「意義」はどこにあるのか。その答えは、養成施設で提供される教育活動そのものの中に存在しなければならない。

本シンポジウムを通して、時代のニーズに即しながら様々なフィールドでリーダーシップを発揮し得る専門介護福祉士（仮）育成の展望や、学校種ごとの教育活動の実践例とその課題などにまつわる議論を展開することで、未だ未成熟ながらも人間存在そのものの本質について探究する学問領域としての「介護」の可能性について考察する。

養成施設における教育はその他資格取得ルートと何が違い、その教育を受けることによって専門職者としてどのような未来が開けていくのか。その未来像を展望したい。

シンポジスト

小笠原 靖治 氏（福岡介護福祉専門学校）
大山 知子 氏（全国老人福祉施設協議会 会長）
野田 由佳里 氏（聖隷クリストファー大学）
木田 茂樹 氏（研修実行委員長・淑徳大学短期大学部）

コーディネーター

白井 幸久 氏（群馬医療福祉大学短期大学部）

【第1分科会】 15:00～16:40

テーマ「留学生教育の実際」

趣旨

日本人学生数の著しい減少がみられる昨今において、多くの養成施設にとって留学生の存在が欠かせなくなっている。しかしながら、日本市場が魅力を失いつつあるといわれる現状下においては、今後留学生を継続的に受け入れることが困難になることも予想される。

また、実際の教育場面においては、日本語力に起因する問題のみならず、文化風習、経済力など多岐にわたる課題によって学習継続が困難になるケースが散見され、その影響は国家試験の合格率にも如実に反映されていると見て取ることが出来るだろう。

本分科会を通して、学生募集、学校運営体制、日常の教育活動、国家試験対策など、留学生対応に独自の工夫を凝らしている養成施設の皆様に具体的な実践事例をご紹介いただくことで、留学生教育の課題を共有すると共に、それらの解決に向けてのヒントを見いだす機会としたい。

座長

井之上 芳雄 氏（日本介護福祉士養成施設協会 副会長・外国人留学生支援委員長）

話題提供者

三前 良平 氏（大阪コミュニティワーカー専門学校）
八子 久美子 氏（日本福祉教育専門学校）
関戸 かおり 氏（専門学校アリス学園）

【第2分科会】 15:00～16:40

テーマ「ICT教育が育む介護の未来像」

趣旨

現在介護福祉サービス実践現場では様々な種類の ICT 技術の導入が急速に進む一方、多

くの介護福祉士養成施設においては、それを取り扱うための学習の機会を十分に提供できていない現状があるのではないだろうか。

サービス利用者と援助者双方に多様な恵みをもたらすために日進月歩で進化する各種 ICT 技術を如何にして用いるべきなのか、そしてその教育を如何なる視点（方策）で行うべきなのか。

本分科会においては、介護福祉士養成の場における ICT 教育の実践例と共に、実際に導入が進む介護福祉サービス実践現場での職員の取り組み事例を合わせて紹介いただくことで、養成施設における ICT 教育の在り方についてのヒントを見出したい。

座長

小林 宏気 氏（東京未来大学福祉保育専門学校）

話題提供者

古川 和稔 氏（東洋大学）

奥野 勝太 氏（富山短期大学）

井口 健一郎 氏（社会福祉法人 小田原福祉会）

【第3分科会】 15：00～16：40

テーマ「養成施設の生き残り戦略」

趣旨

今年度の全国研修のメインテーマである「介護福祉士養成施設の存在意義の再検討」は、現在、国内多くの介護福祉士養成施設が、ひいては介護福祉士養成施設協会そのものが存続の危機に直面しているという厳しい現実理解のもとに設定されたものである。

この現状を生み出している最大要因としての「学生数の減少」は、少子高齢化が進展する我が国においては対応不可能な要素なのだろうか。

本分科会を通して、直接的な学生募集活動（あるいはそれにつながる教育活動）に独自のノウハウを有する養成施設の実践例を紹介いただくことで、学生獲得につながる具体的活動のヒントを見いだす機会としたい。

座長

飯塚 洋一先生（埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校）

話題提供者

伊藤 浩一 氏（いばらき中央福祉専門学校）

吉岡 俊昭 氏（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

高見澤 渉 氏（町田福祉保育専門学校）